

平成23年度 学校経営計画

富山県立桜井高等学校

1 学校教育目標

「自主・協和・創造」

- (1) 「行学一如」の伝統的精神にもとづき、教育目標「自主・協和・創造」の達成につとめ、生徒の自立を図る。
- (2) 責任と義務を自覚させ、良識ある判断力・強い意思力・実行力・忍耐力を育成する。
- (3) 品性の陶冶に努め、豊かな情操を培い、社会規範・秩序を守る精神を育成する。
- (4) 高い知性、すぐれた技術を身につけた新時代に役立つ建設的・創造的精神の育成に努める。

2 学校の特徴

- (1) 本校は普通科、土木科、生活環境科の3学科からなる総合制高校で、それぞれの学科の特徴を生かすとともに、各学科間で切磋琢磨しながら、活気ある校風を作っている。
- (2) 黒部市は国際友好都市としての発展を目指しており、本校においても国際的な視野を持つ人材の育成に努めている。また、普通科に国際コースを設けている。(今年度より募集停止)
- (3) 「行学一如」をスローガンに、学習のみならず、部活動、ボランティア活動、諸行事の活発化に取り組み、バランスの取れた全人教育の充実を図っている。

特に、服装指導・挨拶運動、授業と家庭学習の充実、進路指導、資格取得、個人面接、心の育成とケア、チーム支援に力を入れており、本校の特徴となっている。

3 学校の現状と課題

本校の多様な特色が魅力となっており、これらに憧れて、多様な生徒が入学してくる。生徒の多様性は本校の活発化の原動力ともなっているが、学習意欲や目的意識が希薄な生徒や、家庭学習を含めた生活習慣が未定着のため、高校生活への適応がスムーズに行われない生徒も見受けられる。こうした生徒に、将来に対する明確な展望を持たせるとともに、その実現に向けて家庭学習を含めた生活習慣を身に付けさせ、自ら学び考える態度や豊かな心を育み、自立に向けた生きる力を培う事が課題となっている。

また、本年度入学生より、国際コースを開設しないこととなったが、今までの25年間に国際コースで蓄積されてきた国際感覚を育てるための特設科目や行事を全校生徒が取り組むことができるものとする事も進めていかねばならない。

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
(1) 学習活動 重点1	目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路志望の実現や学力の伸長を図る教育課程を編成する。 基礎学力を定着させ、資格取得や進路実現への意欲をいっそう喚起する教科指導の改善を図る。 	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 各学科やコースの特色を發揮できる教育課程編成について検討し、改善を行う。同時に各教科のバランスや系統性に配慮し、選択制の工夫や専門性の深化について継続的に検討を加える。特に、平成24年度入学生からの理科と数学における新学習指導要領の先行実施にかかる教育課程を検討・編成する。 互見授業、教科部会、学年会議、学科会議などを通して、学力を効果的に伸長する指導方法を検討し実践する。 	
(2) 学校生活 重点2	目標	<ul style="list-style-type: none"> 品位ある服装・あいさつができる望ましい生活習慣を形成する。 交通安全意識の高揚と交通マナーを向上させる。 教師と生徒及び生徒相互の望ましい人間関係の形成 	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 服装指導や挨拶運動に積極的に取り組む。 遅刻指導を実施し、望ましい生活習慣の確立を支援する。 交通安全教室を実施し、交通マナーの向上を推進する。 個人面接などを通して粘り強く対話を行い、教師と生徒の望ましい人間関係の形成を図る。 	
(3) 進路支援 重点3	目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路に関する意識や学習に取り組む意欲を高め、一人ひとりの生徒の進路目標を実現する。 	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 1学年は、総合的な学習「行学」を通して、2、3学年はHR活動を通して、進路について考える機会を各学年学期に2回以上設定する。 学習と進路は一体であるので、週課題の質と量の適正化を図る。 保護者会や学年懇談会への出席を促し、連携をさらに充実させる。 「進路講演会」や「先輩の体験を聞く会」など教員以外からの啓発に努める。 組織的かつ効果的な面接指導を積極的に行う。 学習の記録をつけさせ、生徒の家庭学習の実態把握に努める。 	
(4) 特別活動 重点4	目標	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化。 自主的、実践的な態度を育成する。 他人を思いやる心の育成する。 	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ホームルーム活動、部活動を活発化し、様々な集団での所属感や連帯感を高め、集団の中で個を高められるよう援助する。 生徒会活動や体育大会、球技大会などで生徒に役割を持たせ、主体的に活動する体験を積ませる。 老人ホームの訪問等のボランティア活動を推進する。 	

(5)	その他	目標	・ 学校についての様々な情報を地域や保護者に分かりやすく公開する。
	地域との連携	計画	・ 各部の担当者と協議しながら学校が発信する情報の内容や手段について検討・充実させる。 ・ 学校評議員会や PTA 役員会でも、学校 HP の内容について、建設的な意見をもらい、HP 作りに反映させる。
	保健厚生	目標	・ 生徒の健全な心身を育てる。 ・ 安全で美しい学習環境を整える。
		計画	・ 健康診断の結果に基づいて、事後措置の徹底を図る。 ・ 配慮を必要とする生徒に対して生徒相談会議を随時持ち、チームで生徒の心の支援に当たる。 ・ 日々の清掃活動を徹底させるとともに、月末大掃除を取り入れる。
	図書館活動	目標	・ 生徒に、1冊でも多くの本を読んでもらう。 ・ 生徒が図書館に興味を持つようにする。
		計画	・ 朝読書や総合的な学習の時間、小論文指導を中心にして、読書活動をすすめる。 ・ 定期的な広報活動をする。生徒が中心になり委員会行事を運営することにより、図書館を身近に感じてもらう。
	土木科	目標	・ 資格取得の充実を図る。特に測量士補試験で 70 % 以上 (2 年次で)、2 級土木施工管理技術検定 (3 年次) で 80 % 以上の合格を目指す。
		計画	・ 1 年次の 10 月より週 2 回の放課後補習、4 月より朝と 7 限以降の補講を毎日実施する。3 年次、課題研究の中で取り組む。放課後に 6 ~ 7 回の模擬試験を実施する。
	生活環境科	目標	・ 家庭科技術検定 (食物調理 1 ~ 4 級・被服製作 1 ~ 4 級・保育 3・4 級)・色彩検定・ワープロ実務検定の各種試験で 80 % 以上の合格を目指す。 ・ 教科指導や多様な活動を通しての体験を 3 年間積み重ねることで、家庭や地域社会の生活に生かそうとする態度を育てるとともに将来のスペシャリストを育成する。
		計画	・ 朝学習及び休日等の課題学習を通して各種検定の指導を行う。 ・ 校外学習や家庭クラブ活動を通じた体験的な学習、専門講師による講習等の機会を設ける。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

平成 23 年度 桜井高等学校アクションプラン — 1 —	
重点項目	（学習活動）学習指導の充実
重点課題	自主的・意欲的な学習態度の育成
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や家庭学習において、課題に取り組む姿勢がややもすると受身になり、定着の弱い学習になっている。 ・専門学科やコースに関わる各種の検定等に取り組んでいるが、学習意欲の低下傾向が伺える。
達成目標	①ア：互見授業の実施回数 イ：意欲を持って自主的に学習 や課題に取り組む生徒の割合
	ア：全員が年 1 回以上 イ：70 % 以上（自己評価）
方 策	ア：教員が互いに授業を見学できる期間を長めに設定して、より多くの授業を見学できるようにする。 イ：週課題の出し方を改善したので、徹底を図りたい。
	②<土木科の生徒対象> 測量士補試験 合格率 80 % 以上 土木施工 管理技士試験合格率 80 % 以上 ③<生活環境科の生徒対象> 家庭科各種検定、色彩検定、ワープロ実務検定等 合格率 80 % 以上
	<ul style="list-style-type: none"> ・補習授業や個別指導を継続して行う。 ・HR や火曜日 7 限を使った進路学習をベースにして資格取得や進路実現への意欲を喚起する。

平成 23 年度 桜井高等学校アクションプラン — 2 —	
重点項目	（学校生活）望ましい生活習慣の確立と品位ある着こなしと挨拶意識の高揚
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻の減少と日々の生活習慣の確立 ・品位ある着こなしと挨拶の励行
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の 1 日の平均遅刻者が 3. 9 名であった。さらに遅刻者を減少させ、望ましい生活習慣の確立を目指させたい。 ・短いスカートやズボンなど、制服の着こなしに乱れがある生徒は、一作年からの指導でかなり減ってよくなったが、まだ時々指導を受ける生徒がいる。また、明るく挨拶をする生徒も多くなったが、さらに徹底できるようにしていきたい。
達成目標	①遅刻回数
	1 日平均 4 名以下
方 策	②生徒玄関での着こなし指導で、スカート丈、ズボン等で注意を受けた回数
	1 人平均 1 回以下（年間）
	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して玄関指導を実施し、品位ある制服の着こなしと挨拶の徹底を図る。また、生徒会による呼びかけ等、様々な取り組みを展開する。

平成 23 年度 桜井高等学校アクションプラン — 3 —		
重点項目	(進路支援) 進路について関心を高め、進路目標実現を支援する。	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の早期明確化と学力養成 ・組織的・計画的な生徒の実態把握と面接指導の推進 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標がなかなか決まらない生徒が多数おり、学習意欲が高まらない一つの要因となっている。また、見通しを持って計画的に学習に取り組む時期が遅く受験に向けての学習時間が総合的に不足している。 ・面接週間を設定し、生徒の実態把握、学習意欲の向上を図っているが、学習時間や、教員間での情報の共有が必ずしも十分ではない。 	
達成目標	①進路について考える機会	②桜井高校進路指導部が提供した進路指導について、卒業時点で満足する割合
	各学年学期に 2 回以上	80 % 以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・「行学の時間」(総合的な学習の時間)やホームルームの時間を使って進路学習を行い、早期の進路目標を設定に努める。 ・進路講演会、卒業生の報告会、職業体験会などを実施して意欲の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部模試等を有効活用し、進路実現に向けて対策を講じる。 ・全体指導もさることながら面接指導などの個別指導を充実させ、一人ひとりの生徒の目標実現を支援する。 ・学習の記録をつけさせ、家庭学習の実態把握に努める。

平成 23 年度 桜井高等学校アクションプラン — 4 —		
重点項目	(特別活動) 望ましい集団活動の育成を通して自主的・実践的な態度を育てる。	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活性化 ・生徒会活動の活性化を通じた自主的・実践的な態度の育成 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動は全員加入制をとっているが、学習との両立ができずに中途半端になったり、興味が持てず活動をしていない者もいる。学校の活力を高めるという視点からもさらなる活性化が必要である。 ・生徒会活動が一部の生徒の活動というイメージがあり、一人一人の生徒が組織の一員としての自覚を持てるよう創意工夫が必要である。 	
達成目標	各部活動における実質的な加入率と活動率	・体育大会や球技大会での満足度
	加入率 95 % 以上 活動率 70 % 以上	80 % 以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・部長会議を開催し、意識の高揚を図るとともに、必要な環境整備を行う。 ・放課後を部活動の時間として確保できるよう学校全体の意識を統一する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事の準備を早めに開始し、生徒の意見を積極的に取り入れた計画・実施を目指す。

平成 23 年度 桜井高等学校アクションプラン — 5 —

重点項目	(地域との連携) 学校ホームページの充実	
重点課題	学校ホームページを地域や保護者にとってより魅力あるものにする。	
現 状	地域に学校の魅力と実績を伝え、保護者には学校の現在を伝える窓として学校 HP は重要性を増してきている。地域に学校の魅力を伝え、保護者に分かりやすい HP 作りを進めていく必要がある。	
達成目標	①ホームページの更新 平均月 1 回以上更新する。	②「より分かりやすく」の観点からのホームページの改善 (更新と新設) の推進 年度末に改善点を示し、学校評議員、PTA 役員から 60% 以上の肯定的な回答を得る。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評議員、PTA 役員から意見をもらう。 ・ 意見を参考に HP を改善する。(古いコンテンツの更新を含む) ・ 年度末に改善点をまとめる。 	